

# 水と環境

## 「水脈は金脈」である

グローバルウォーター・ファンド代表 吉村和就



1、ウォーター・ファンド

人口増加、急激なる経済発展に伴い、世界中で水の需要が急増している。取水権の売買や急増しているミネラルウォーターの販売などは、水そのものの売買であり、古典的な水取引である。水が限りの資源として認識されるとともに、水および水に関する企業をまとめ、金融商品として扱うファンドが多数設定されるようになった。

最も有名なのはロンドンを拠点とするピクテグループの「ワールド・ウォーター・ファンド」である。これは世界中の水関連会社から、①上下水道事業で収益をあげてい

る企業②ミネラルウォーターの製造・販売企業③汚水や廃棄物処理を行う企業④水に関する機器やコンサルティングを行って、運用資産の適正範囲をグローバル企業の上位50社を選びファンドを設定しており、高い収益を上げている。

もちろん日本企業も東田工業など数社が組み込まれている。その他、水

関連投資において専門チームを抱えているSAM社(サスティナブル・アセット・マネージメント・スイス)、MFS社、世界的なネットワークを有するパークレイズキャピタル社のウォーター・ファンドなどが好成績を収めている。

日本においても野村アセット・マネージメント社(サスティナブル・アセット・マネージメント社)など、日興アセット・マネージメント社などから水関連会社と温暖化関連株を組み合わせたファンドが多数提供されている。例えばフィディリティ投信が提供する、フ

ィディリティ・スリー・水処理することにより、金融商品として排出権取引を得る仕組みである。もちろん浄化された水資源は農業用水として(15カ国)、クリーンエネルギー関連企業30社(10カ国)を組み入れ、環境意識の高まりを先取りした資産運用を提案している。

G8洞爺湖サミットを控え、益々注目される環境・水ファンドであり目が離せないであろう。2、新しい概念 汚水・排水の浄化でCO<sub>2</sub>排出権取引

汚水・排水を処理し、温暖化効果ガスを削減する。排出権取引として従来のクリーン開発メカニズム(CDM)や共同実

施の概念がそのまま使える。CO<sub>2</sub>排出権取引は2007年時点で欧州を中心に活発化し、現在約500億ユーロ(約7・5兆円)の市場が形成され急拡大している。

3、水の浄化で地球温暖化防止に貢献する

日本は世界的にすぐれた水処理技術を有している。1/10など世界最高の性能を誇るなど、この水分野でのリーダーシップが期待されている。

人口の増加や新興国の急激な経済発展に伴って、水が貴重な生産資本財となるなか、目の前の排水・汚水・工業廃水がCO<sub>2</sub>排出権を生み出す、貴重な資源となる日がくるかも知れない。

野村アセット・マネージメント社(サスティナブル・アセット・マネージメント社)など、日興アセット・マネージメント社などから水関連会社と温暖化関連株を組み合わせたファンドが多数提供されている。例えばフィディリティ投信が提供する、フ

ィディリティ・スリー・水処理することにより、金融商品として排出権取引を得る仕組みである。もちろん浄化された水資源は農業用水として(15カ国)、クリーンエネルギー関連企業30社(10カ国)を組み入れ、環境意識の高まりを先取りした資産運用を提案している。

## 金融商品化する水関連市場

### 汚水浄化で排出権取引も

水関連企業が取り上げられているファンド

証券会社名	ファンド名称
野村アセットマネージメント	ワールド・ウォーター・ファンドA、Bコース
日興アセットマネージメント	グローバル・ウォーター・ファンド
大和投資信託	地球環境株ファンド
国際投信投資顧問	地球温暖化対策株オープン
UBSグローバル・アセット・マネージメント	UBS地球温暖化対応関連株ファンド
三菱UFJ投信	グローバル・エコ・ウォーター・ファンド
フィディリティ投信	愛称「水と大地とエネルギー」ファンド